

ひかり こひなた
落つる陽は小日向に 浮き立つ月の小石川
こいしかわ

あきつ みようがだに
人の恋しき夕べにも 秋告ぐ里は茗荷谷

令和三年八月二十四日

大中臣正比呂



茗荷谷は小石川と小日向に挟まれた谷である。昔、茗荷が群生して
いたことから、東京の文京区に今もその名が残る。今も野生が良い。

香り豊かな野趣の茗荷は、秋を告げる食材である。